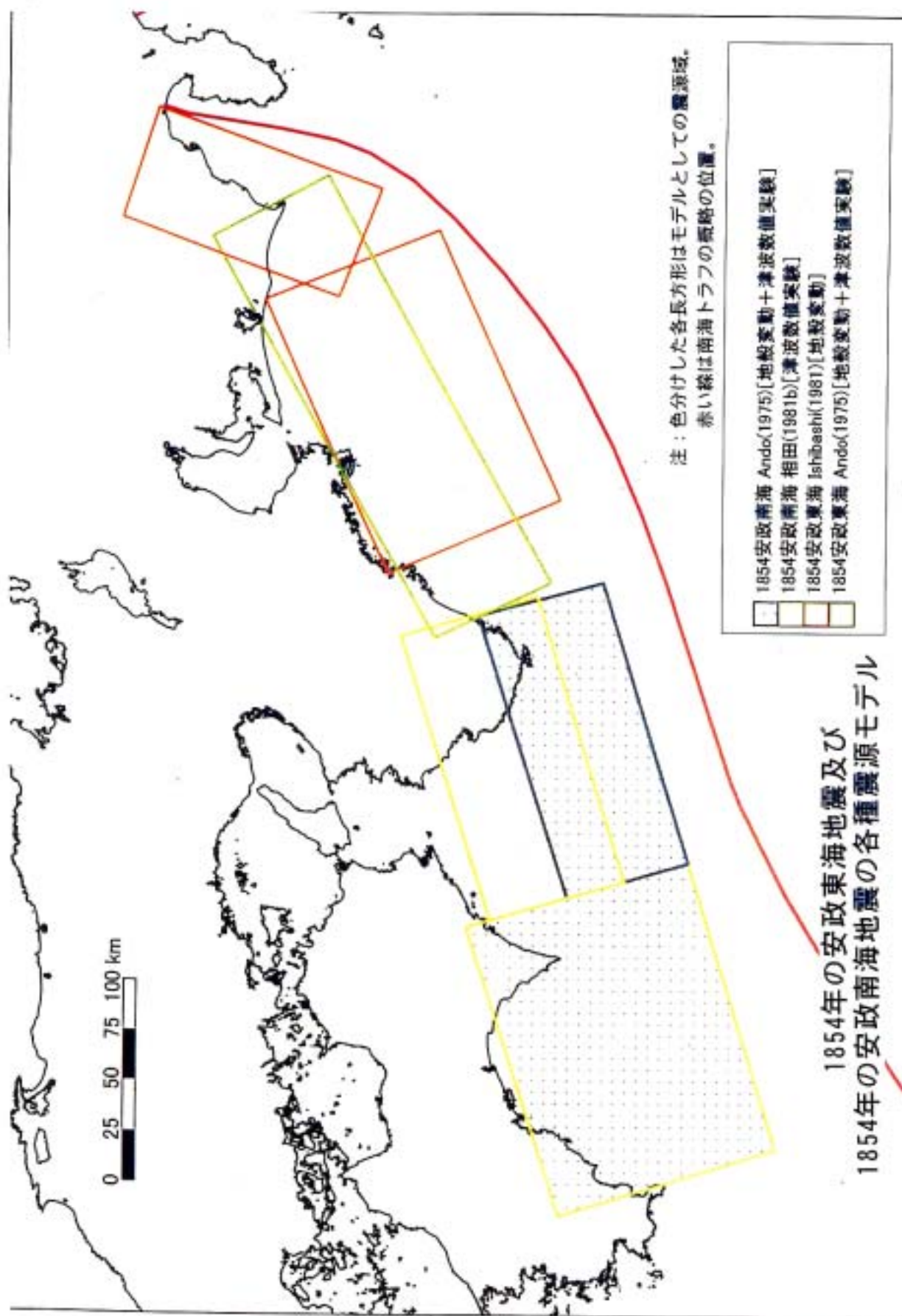
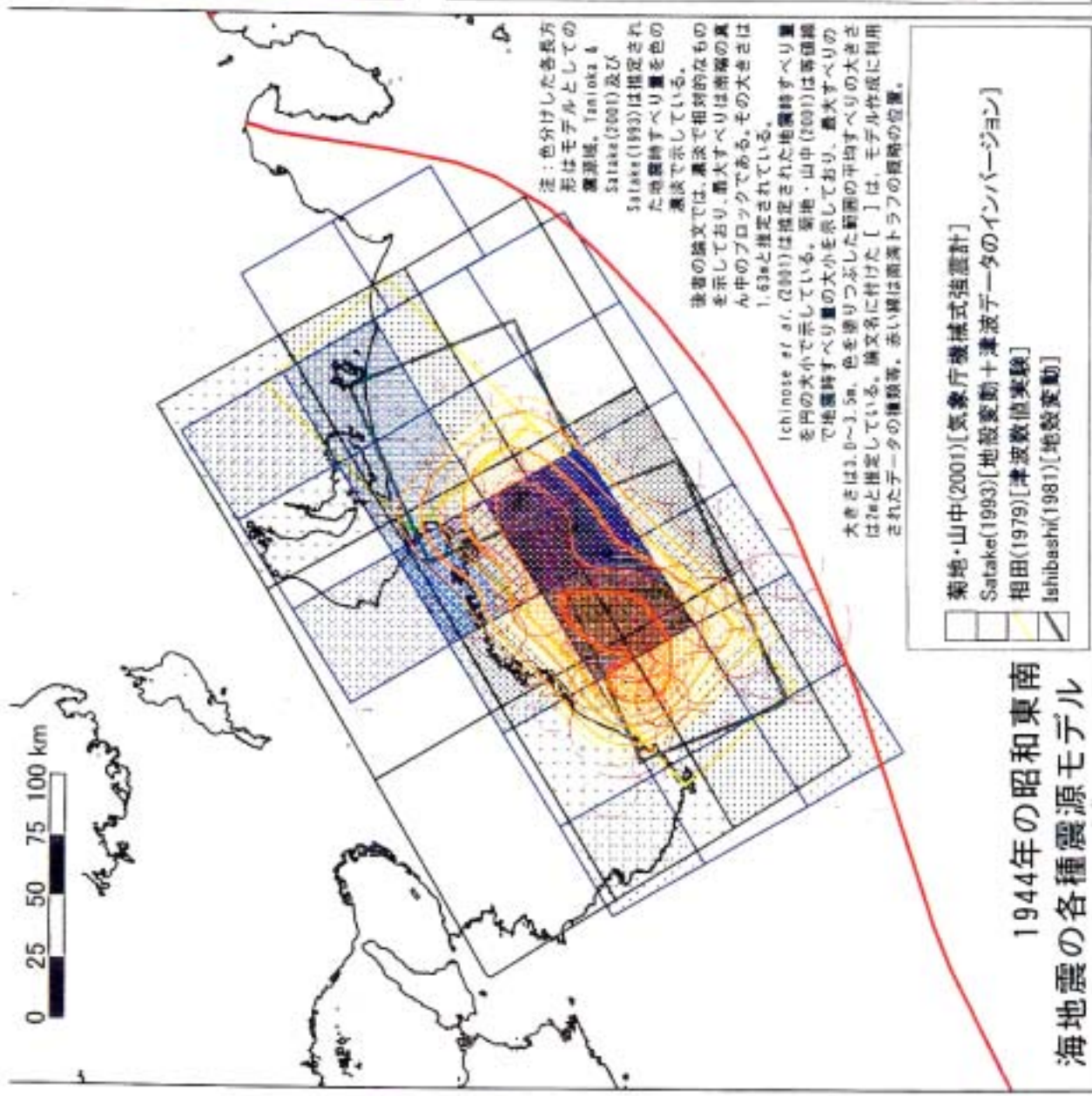


東南海・南海地震、近畿圏・中部圏の内陸部の地震  
と被害



注：色分けした各長方形はモデルとしての震源域。  
赤い線は南海トラフの震略の位置。

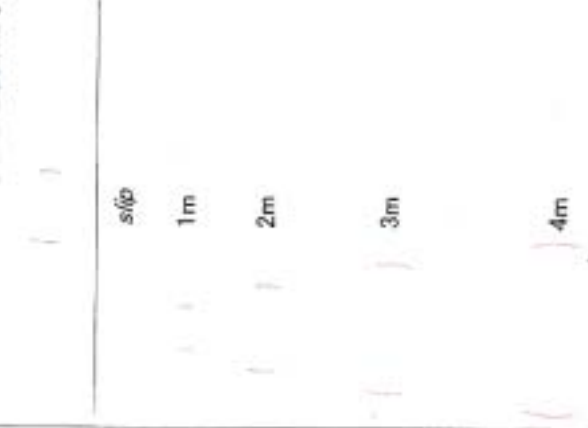
1854年の安政東海地震及び  
1854年の安政南海地震の各種震源モデル



Tanioka and Satake(2001b)



Ichinose et al.(2001)[遠地地震波形]

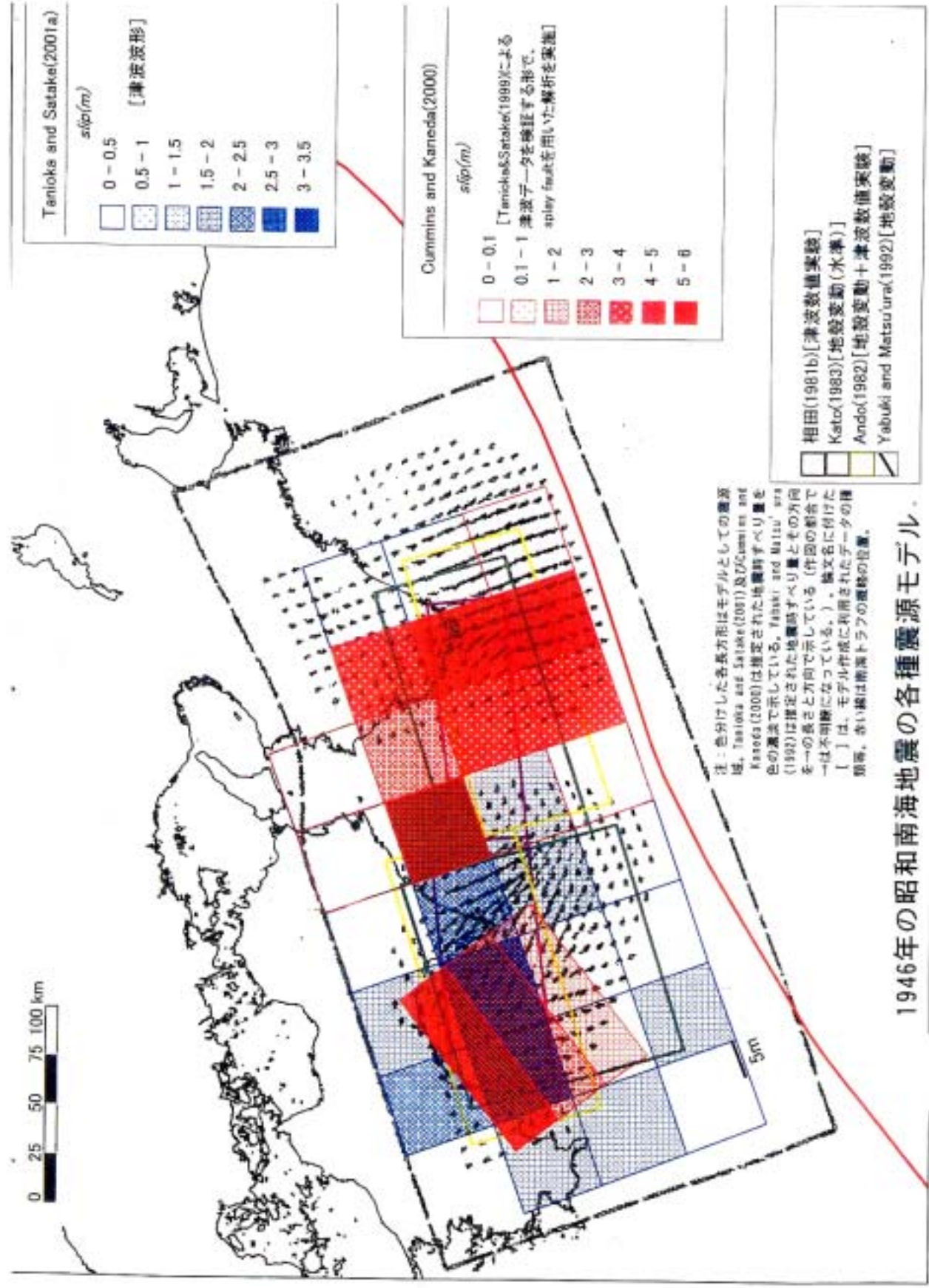


注：色分けした各長方形はモデルとしての震源域、Tanioka & Satake(1993)及びSatake(2001)は指定された地震時すべり量を色の濃淡で示している。後者の論文では、濃淡で相対的なものを示しており、最大すべりは南端の真ん中のブロックである。その大きさは1.63mと推定されている。

Ichinose et al.(2001)は指定された地震時すべり量を円の大小で示している。菊地・山中(2001)は等価線(地震時すべり量)の大小を示しており、最大すべりの大きさは3.0~3.5m、色を塗りつぶした範囲の平均すべりの大きさは7σと推定している。論文名に付けた【】は、モデル作成に利用されたデータの種別等、赤い線は開港トラフの概略的位置。

- 菊地・山中(2001)[気象庁機械式強震計]
- Satake(1993)[地震変動+津波データのインバージョン]
- 相田(1979)[津波数値実験]
- Ishibashi(1981)[地震変動]

1944年の昭和東南  
海地震の各種震源モデル



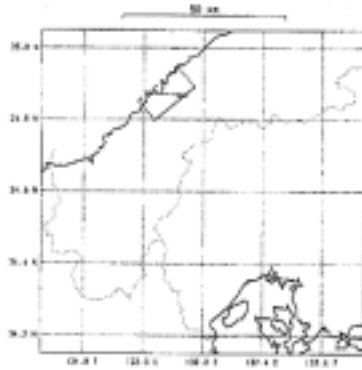
注：色分けした各長方形はモデルとしての震源域、Tanioka and Satake(2001)及びCummins and Kaneda(2000)は推定された地震時すべり量を色の濃淡で示している。Yabuki and Matsuyama(1992)は推定された地震時すべり量とその方向を→の長さと方向で示している（作図の都合で→は不明瞭になっている。）。論文名に付けた「1」は、モデル作成に利用されたデータの種別名、赤い線は断層トラフの震源域の位置。

1946年の昭和南海地震の各種震源モデル。

# 浜田地震

・中震源

・発震源



発震機構

(「日本の地震断層パラメーター・ハンドブック」p. 135)

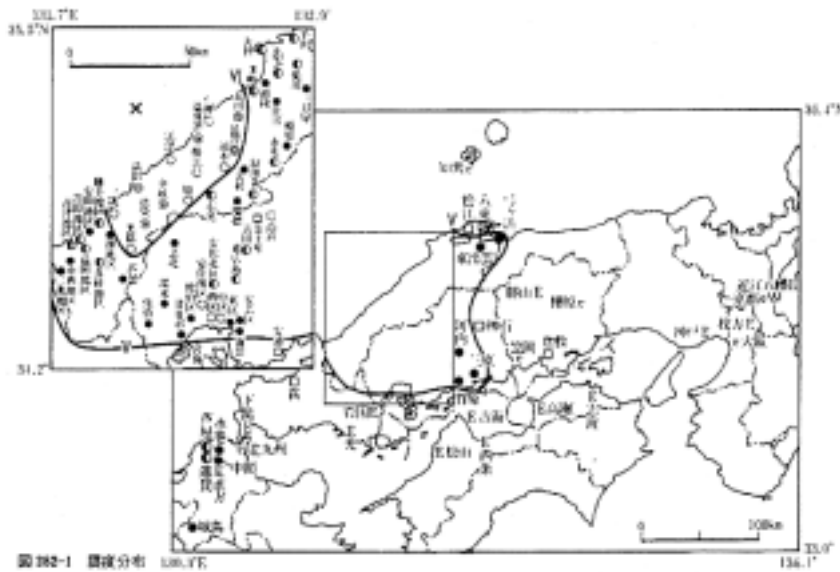


図 282-1 震度分布

震度分布 (「新編日本被害地震総覧・増補改訂版」p. 167)

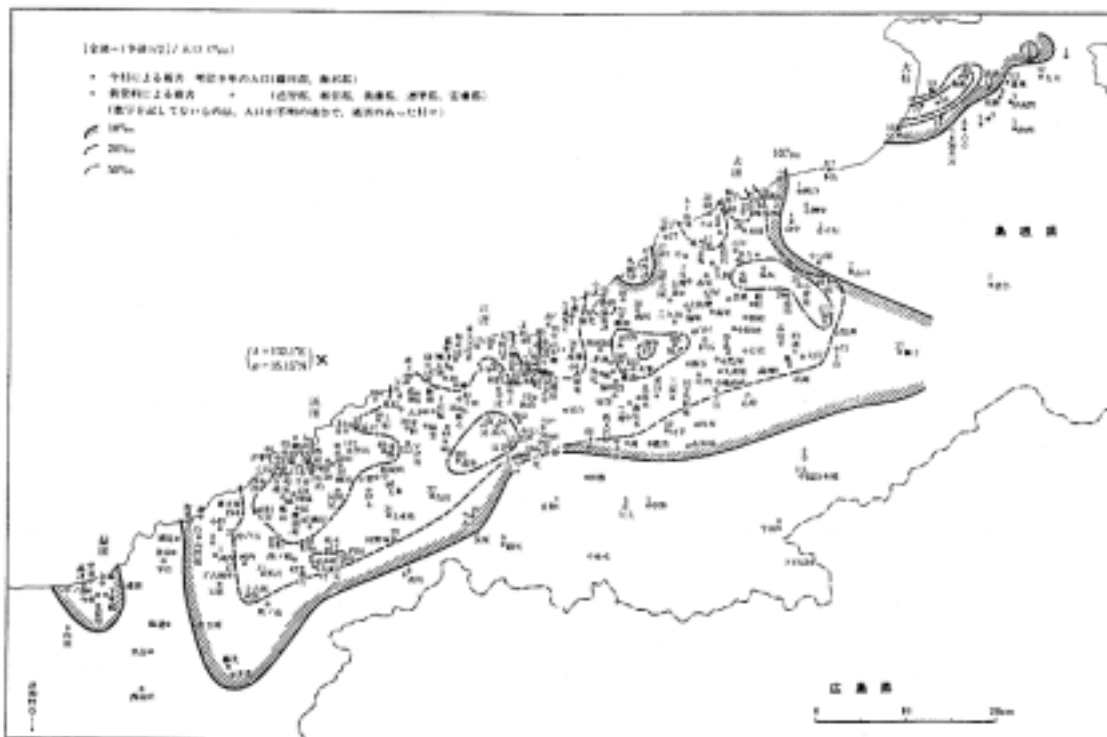


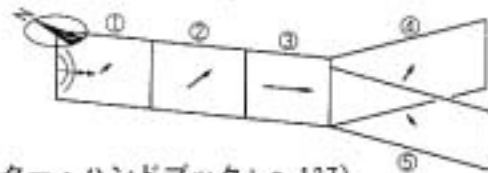
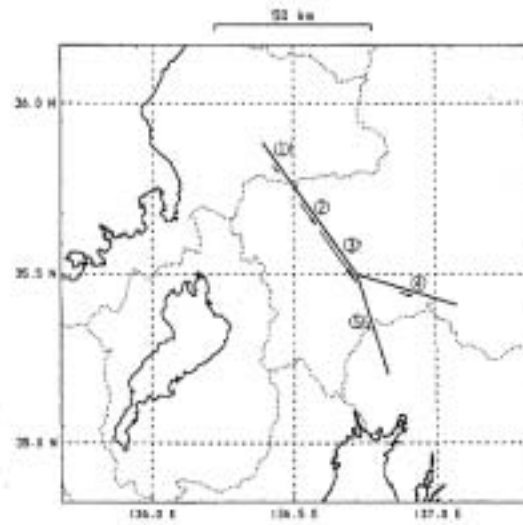
図 282-2 被害分布

被害分布 (「新編日本被害地震総覧・増補改訂版」p. 168)

# 濃尾地震

・平面図

・見取図



発震機構（「日本の地震断層パラメーター・ハンドブック」p.137）

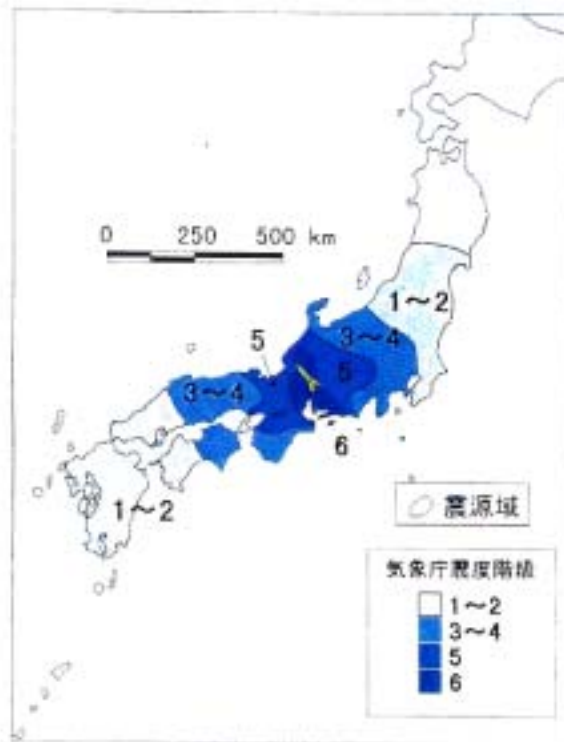


図6-15 濃尾地震の震度分布図  
[気象庁(1968)による]



図6-16 濃尾地震の住家被害率分布  
[村松(1983)から作成]

震度分布（「日本の地震活動・追補版」p.169）

被害分布（「日本の地震活動・追補版」p.169）

# 北但馬地震



震度分布 (「新編日本被害地震総覧・増補改訂版」 p. 247)

図 438-2 震度分布 [気象庁による]

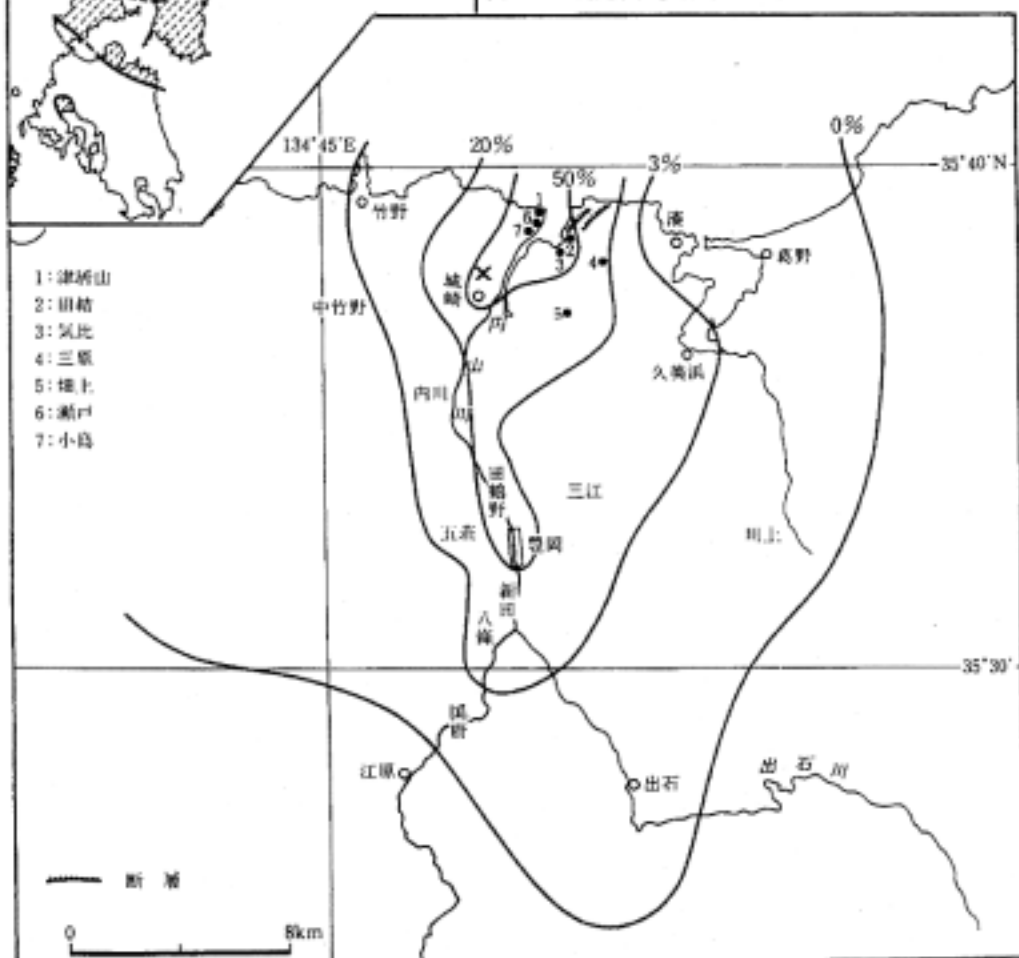
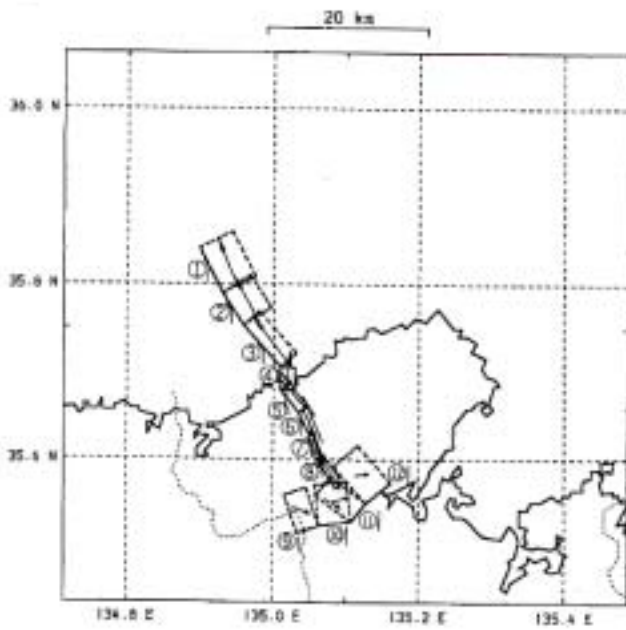


図 438-3 全壊率分布 [今村, 1927 から作製]

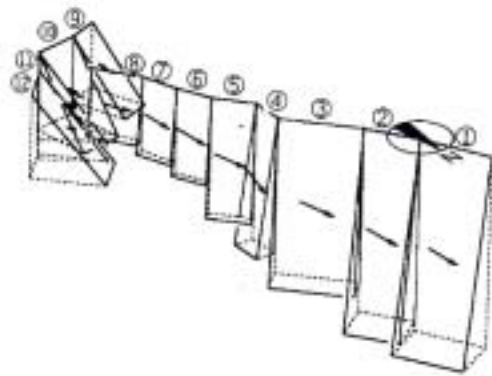
被害分布 (「新編日本被害地震総覧・増補改訂版」 p. 247)

# 北丹後地震

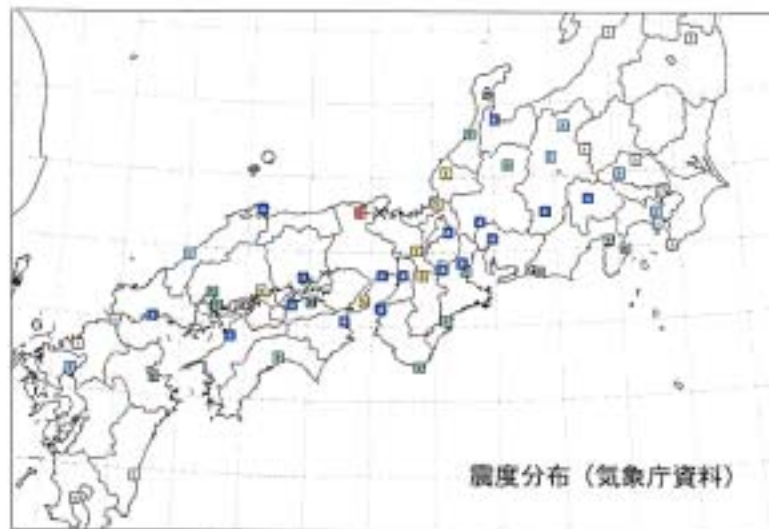
・平面図



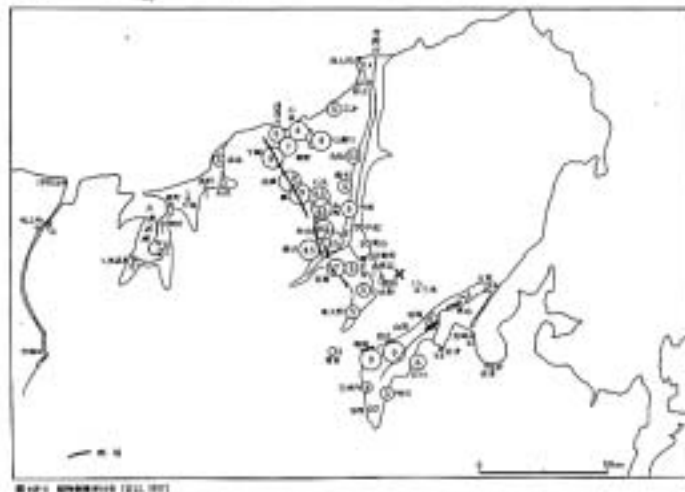
・見取図



発震機構  
 (「日本の地震断層パラメータ・ハンドブック」p.161)



震度分布 (気象庁資料)

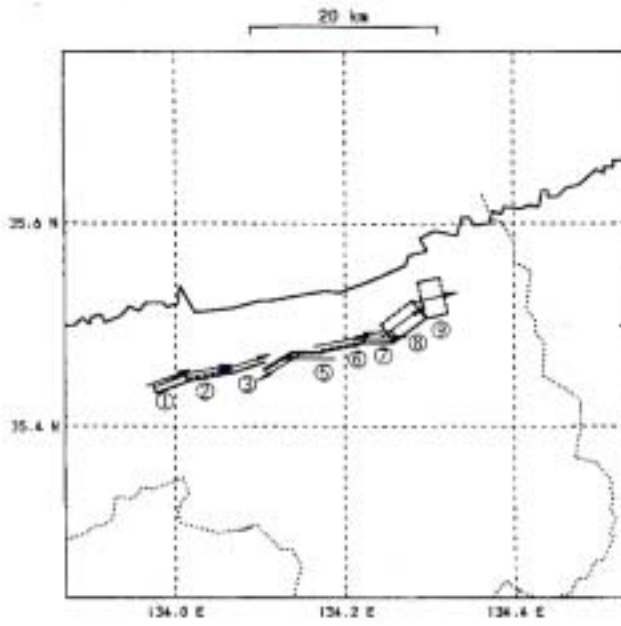


被害分布 (「新編日本被害地震総覧・増補改訂版」p.249)

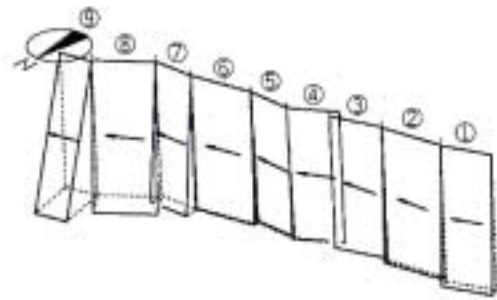


# 鳥取地震

・平面図

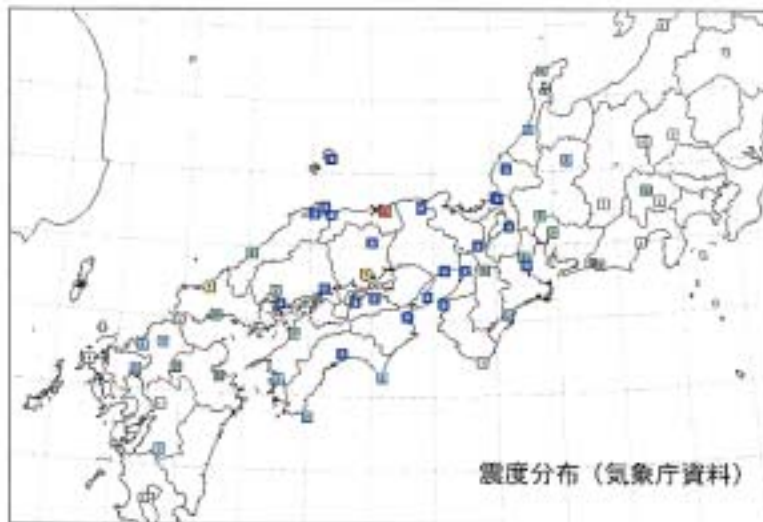


・見取図



発震機構

(「日本の地震断層パラメーター・ハンドブック」 p. 194)



震度分布 (気象庁資料)

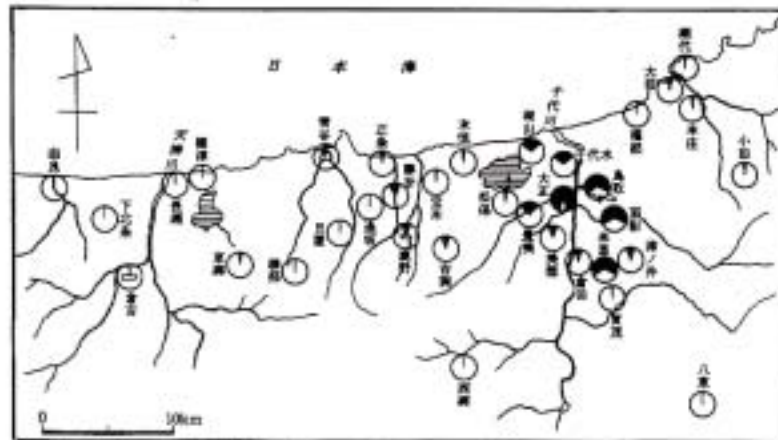


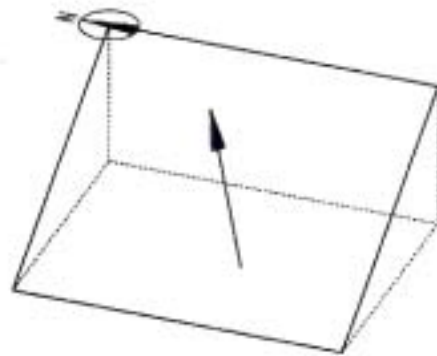
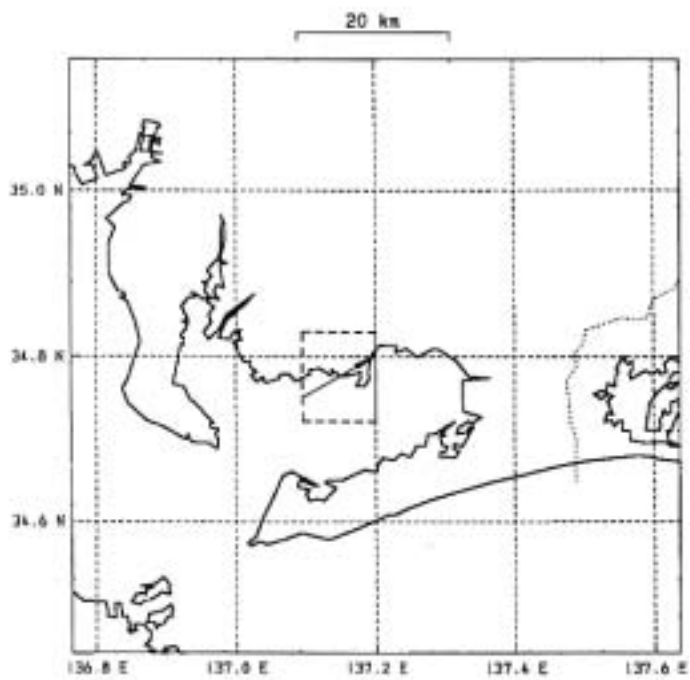
図 189-2 和村町の震害全図集 (中上, 1942)

被害分布 (「新編日本被害地震総覧・増補改訂版」 p. 292)

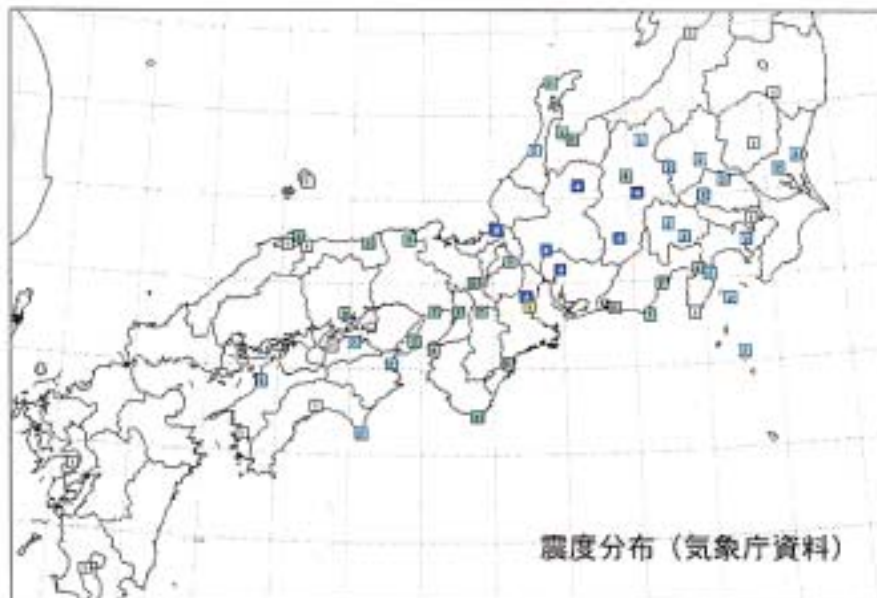
# 三河地震

・平面図

・見取図



発震機構（「日本の地震断層パラメーター・ハンドブック」p. 203）

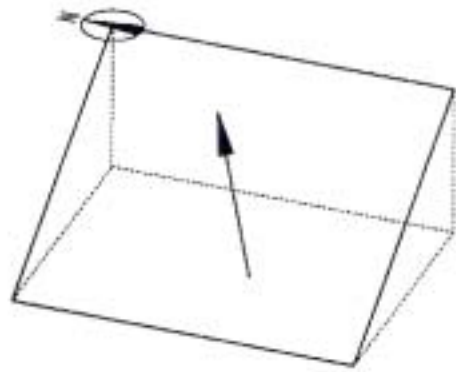
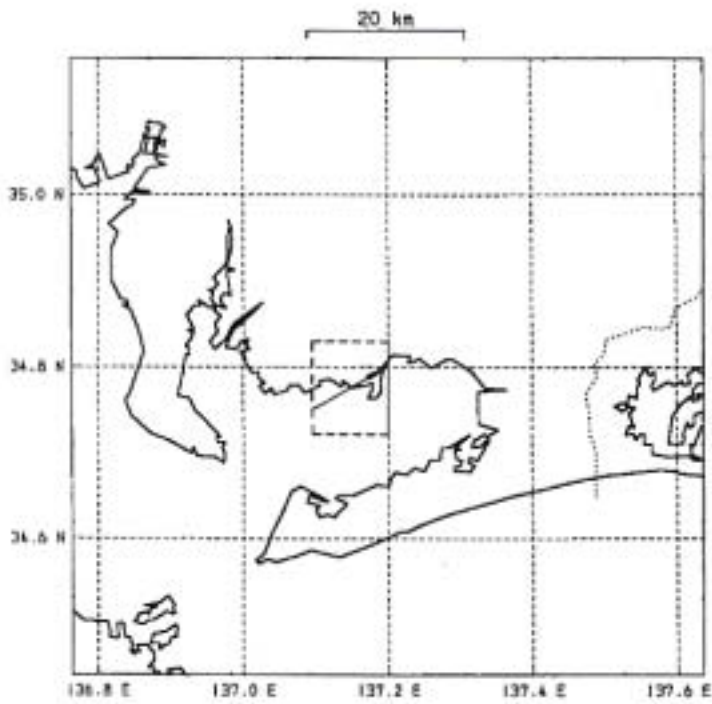


震度分布（気象庁資料）

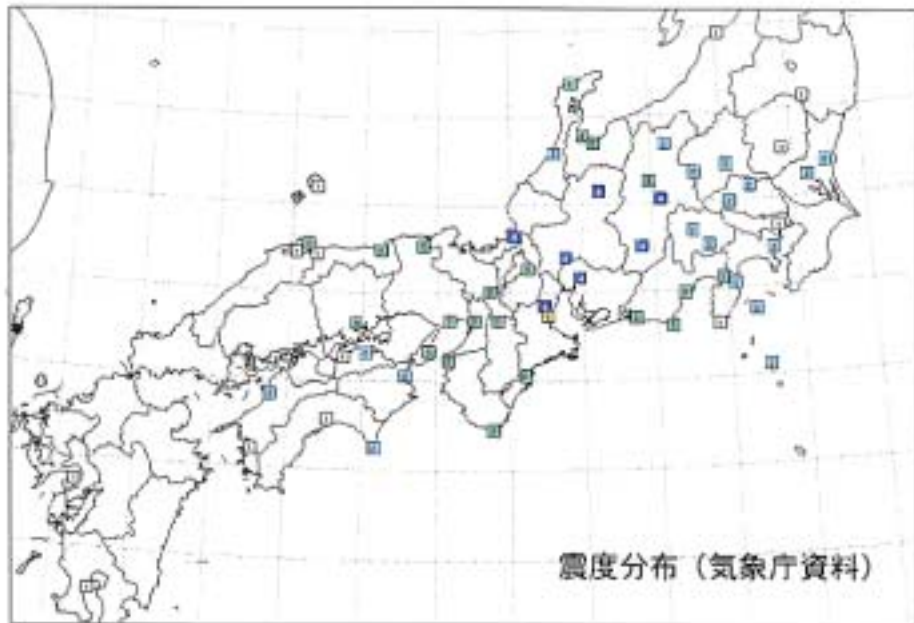
# 三河地震

・平面図

・見取図



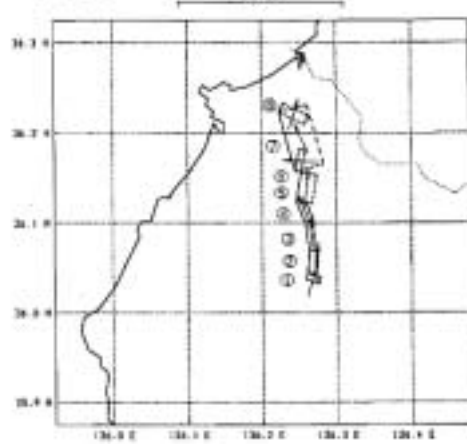
発震機構（「日本の地震断層パラメーター・ハンドブック」p. 203）



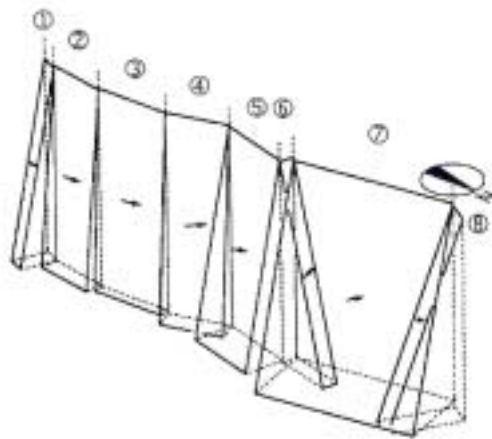
震度分布（気象庁資料）

# 福井地震

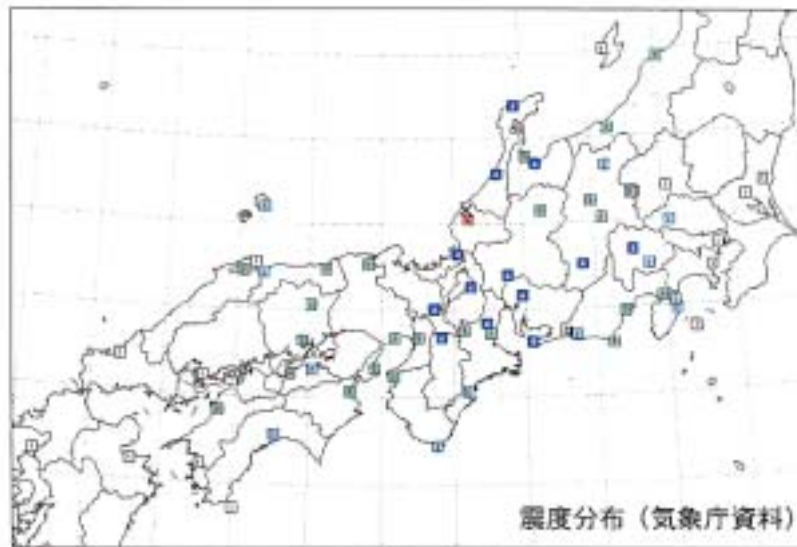
・平面図



・見取図



発震機構 (「日本の地震断層パラメーター・ハンドブック」 p. 217)



震度分布 (気象庁資料)

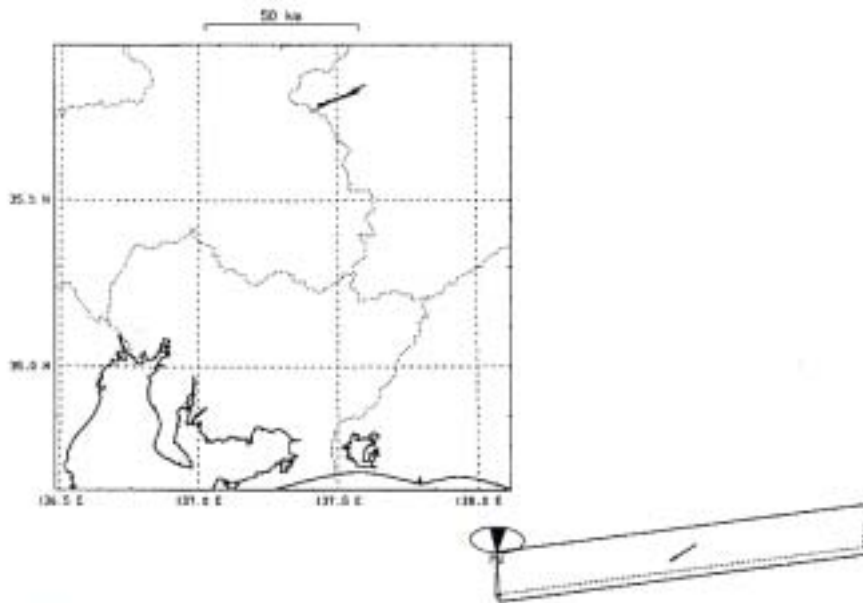


被害分布  
(「新編日本被害地震総覧・増補改訂版」 p. 306)

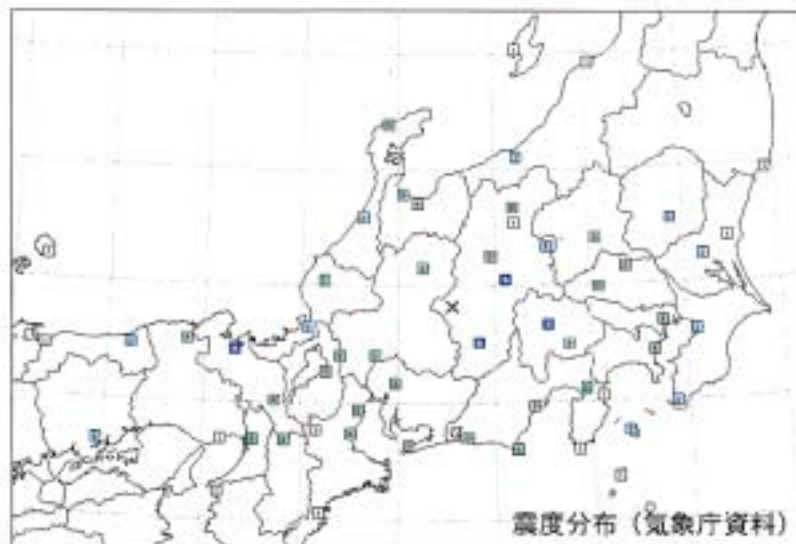
昭和 59 年(1984 年)長野県西部地震

・ 位置図

・ 震源図



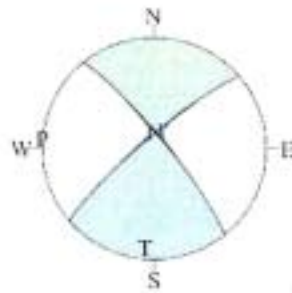
発震機構 (「日本の地震断層パラメーター・ハンドブック」p. 377)



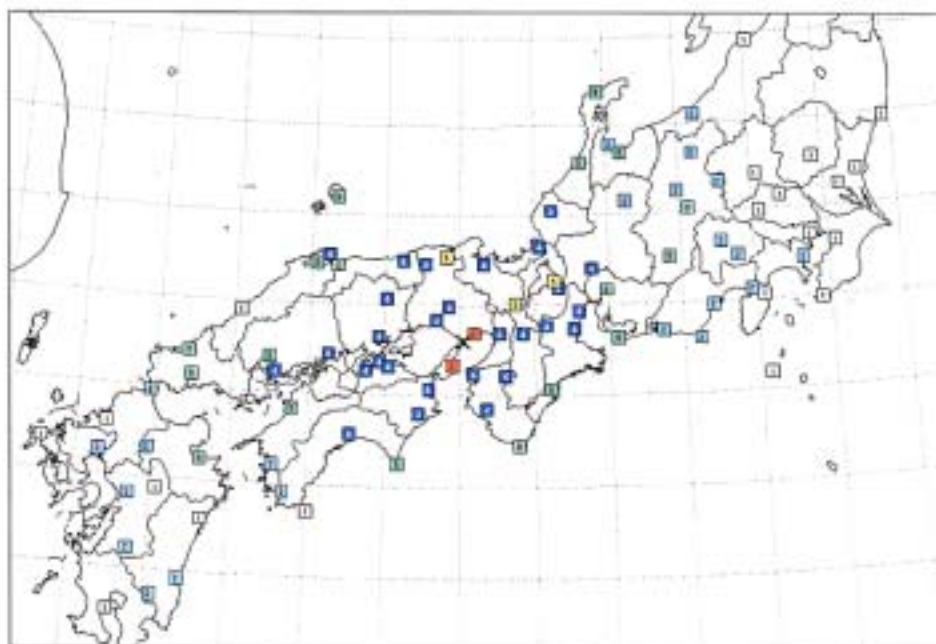
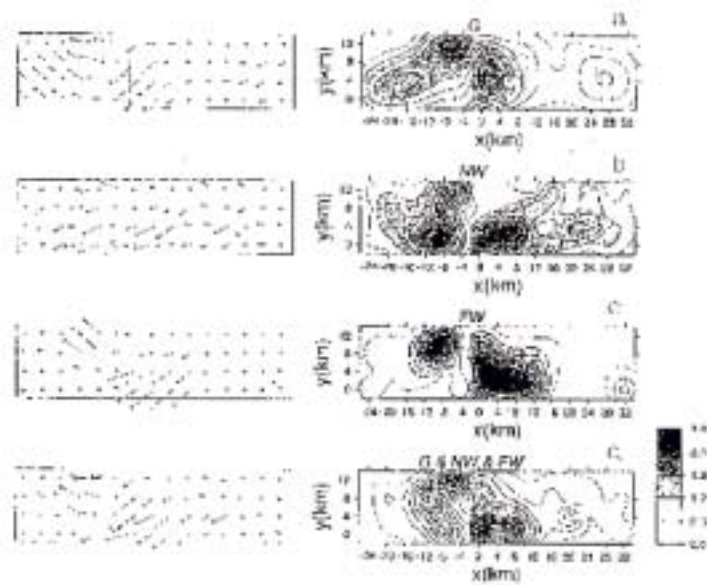
震害発生回数 (震害発生回数) 震害発生回数 (震害発生回数)

被害分布 (「新編日本被害地震総覧・増補改訂版」p. 446)

# 平成7年（1995年）兵庫県南部地震

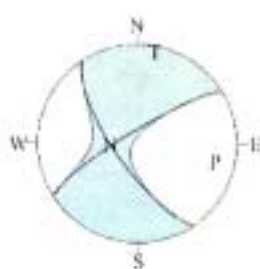


震源メカニズム解（気象庁提供）

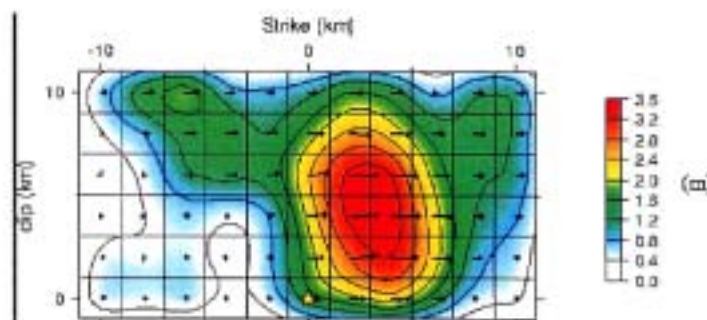


震度分布（気象庁提供）

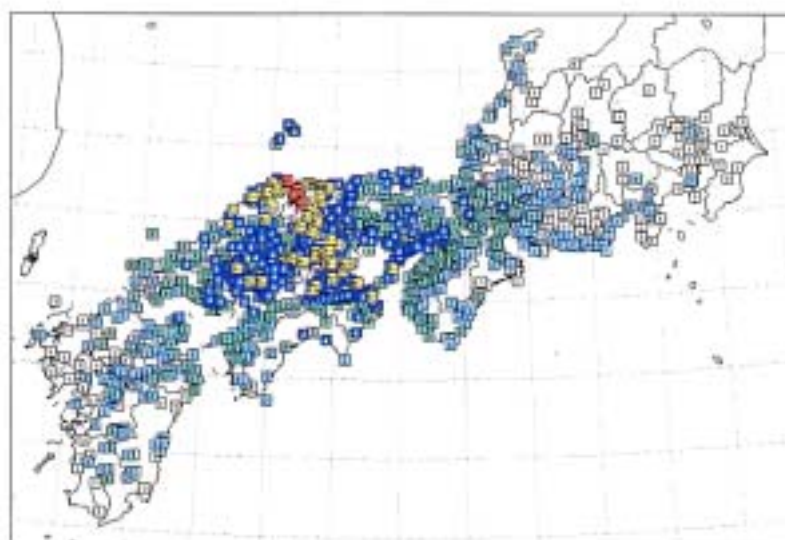
# 平成12年（2000年）鳥取県西部地震



震源メカニズム解（気象庁提供）



Distribution of coseismic slip.  
Star indicates the location of the initial break.  
(Yagi & Kikuchi 2000)

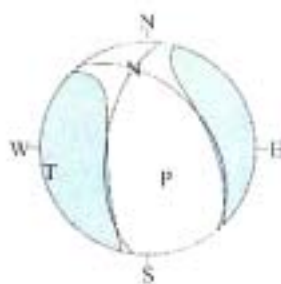


震度分布（気象庁提供）

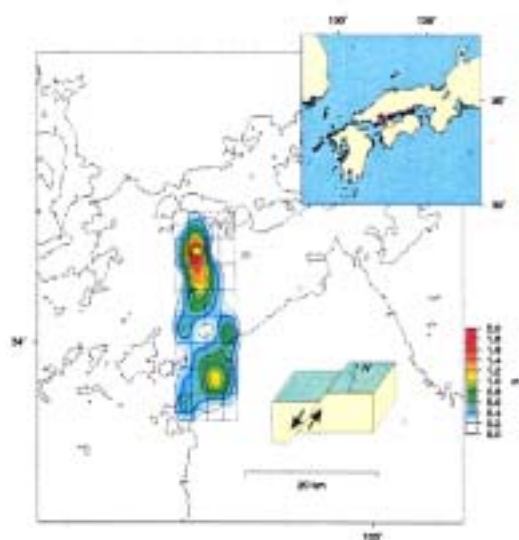


被害集計表（消防庁まとめ 2000/10/11 13:00現在）

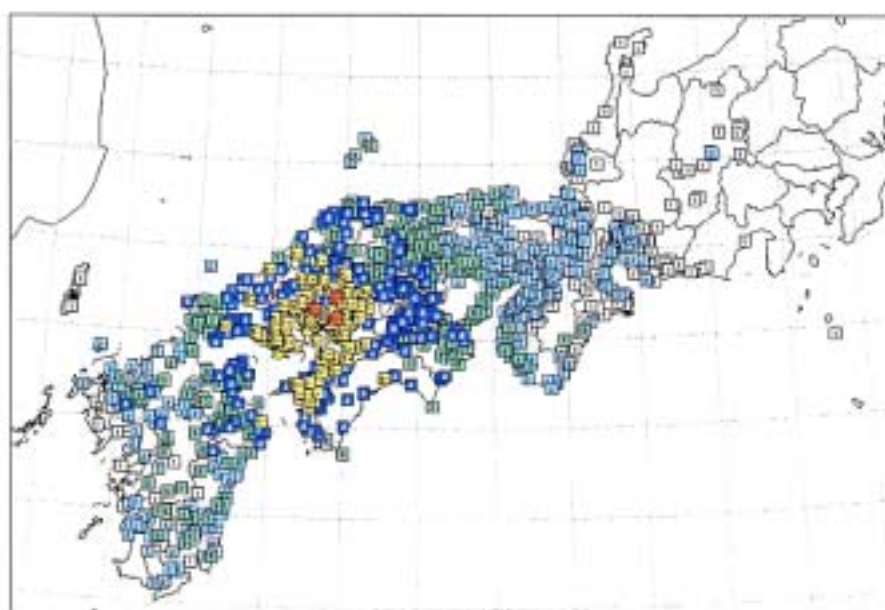
# 平成13年（2001年）芸予地震



震源メカニズム解（気象庁提供）



Distribution of coseismic slip.  
Star indicates the location of the initial break.  
(Yagi & Kikuchi 2001)

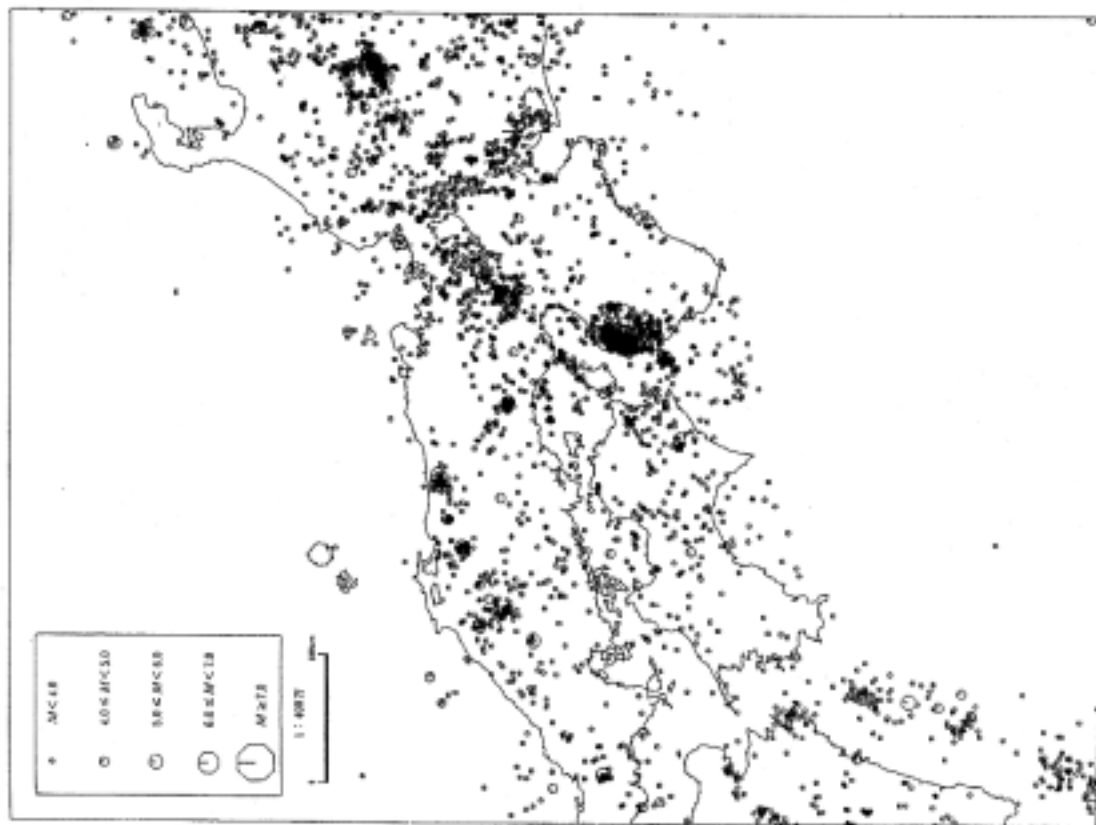


震度分布（気象庁提供）

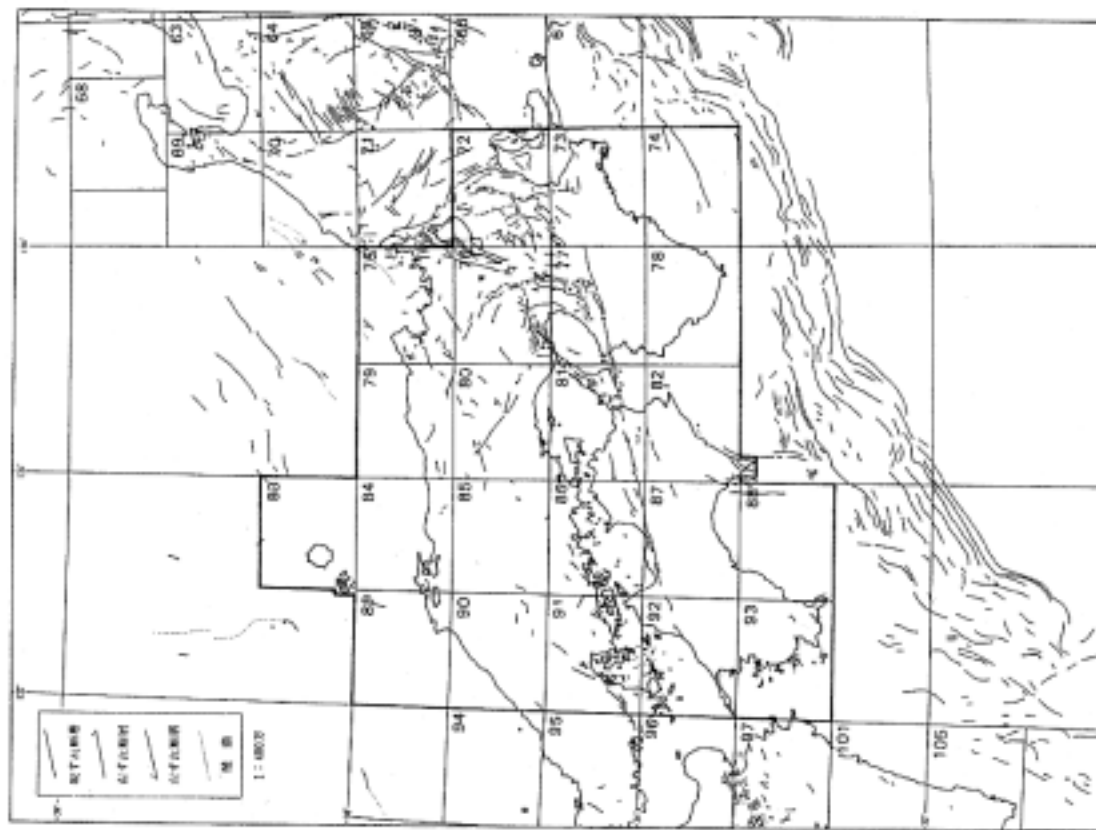


# 近畿・中国・四国

近畿・中国・四国地方の活断層分布と最近の地震活動



地震分布図(1983-1988年に起こった、20km以上の深さのM2.0以上の地震)



活断層分布図(本図は南海海溝の地震、数字は四角番号を示す)

新編「日本の活断層」東京大学出版会による

関連文献リスト

- Hori & Oike, A Statistical Mode of Temporal Variation of Seismicity in the Inner Zone of Southwest Japan Related to the Great Inter-plate Earthquakes along the Nankai Trough, *JPE*, vol. 44, 349-356, 1996
- Ando, M.(1975) Source mechanisms and tectonic significance of historical earthquakes along the Nankai trough, Japan, *Tectonophysics*, 27, 119-140, 1975
- Seno, T., Pattern of inter-plate seismicity in southwest Japan before and after great inter-plate earthquakes, *Tectonophysics*, 57, 267-283, 1979
- Utsu, T., Correlation Between great earthquakes along the Nankai trough and destructive earthquakes in western Japan, *Rep. Coord. Comm. Earthq. Predict.*, 12, 120-122, 1974
- Yoshioka, S. and M. Hashimoto, A quantitative interpretation on possible correlations between intra-plate seismic activity and inter-plate great earthquake along the Nankai trough, *Phys. Earth Planet. Inter.*, 58, 173-191, 1989